

多世代ワークショップの企画と実施を通じた岐阜県中津川市加子母地区における女性活動団体に関する研究

指導教員 藤岡 伸子 教授

山崎 有香

1. 研究の背景と目的 岐阜県中津川市にある中山間地域加子母には、女性たちの交流の場である「婦人会」が設置されていた。しかし、2017年の解散以降、加子母地区における女性活動団体同士の交流は無くなりつつあり、危機感を持った女性たちは新しく、加子母むらづくり協議会（以下、「むら協」）の中に「女性分科会」を設置した。（表1）

本研究は、「女性分科会」及び、様々な規模・目的で自律的に活動する女性活動団体同士の交流のあり方を模索するとともに、さらなる地域交流活動の発展促進の一助とすることを目的とする。

2. 研究の対象と流れ まず、「女性分科会」及び、加子母地区内で住民から明確に認知されている10以上の女性活動団体に対して、活動の現状や問題点、ニーズを把握するため、聞き取り調査を実施する。次に、女性同士の情報・意見交換の場として多世代ワークショップ（以下、多世代WS）を行う。さらに、本ワークショップ参加者の交流に対するニーズを把握し、団体同士の協働の可能性を探るためにアンケート調査を実施する。最後に、女性活動団体間の交流の現状や今後の可能性について検討する。

3. 聞き取り調査 本研究では、加子母地区の女性活動の中心で、「むら協」の一組織である「女性分科会」と、有志で自律的に活動している9団体（表2のA-I）を調査対象とする。これらを、活動の目的別に《教育》《子育て》《高齢者ケア》《情報発信》《防災》《文化継承（郷土料理）》の6つにカテゴリー分けをした。「女性分科会」の変遷を表1、9団体の活動の目的を表2、互いの関係を図1に示す。各女性活動団体のニーズと課題を下記に詳述する。

3.1 加子母むらづくり協議会「女性分科会」 2017年、女性たちの多忙化などの理由で「婦人会」が解散し、団体同士の交流の希薄化に危険意識を持った女性たちは、2017年10月に「むら協」の一企画として「女性懇談会」を開催した。その後、2019年から本格的に「女性分科会」として活動が発足した。この組織は、女性同士のつながりや世代間交流を通して、女性ならではの視点をむらづくりに活かすことを目的としている。会長のF氏は、2018年3月に開催した第2回女性懇談会で、以下について発言した：①「加子母地区で活動する女性活動団体の詳細を互いに把握していない」、②「子育て世代にどんな人がいるのか知らない。」これにより、加

A Study on Women's Activity Groups in Kashimo, Gifu Prefecture, Through Planning and Implementation of a Multi-Generational Workshop

表1 女性分科会・年表

年 月	2005		2017		2018		2019	
	04	04	10	03	07	10		
変 遷	婦人会		● 解散	女性懇談会		女性分科会		
	○ 中津川市と合併			● 第2回 女性懇談会		● 第4回 女性分科会		

子母地区は人口3,000名弱の小規模なコミュニティで、各団体の構成員も少数であるにもかかわらず、女性活動団体同士で活動を知らない現状が明らかとなり、それに対し、会長F氏は問題意識を表明した。

3.2 《教育》

A. 女性林業団体「恵那こぶしの会」 ニーズとして、将来的に、子どもたちに山遊びや川遊びの楽しさと危険を正しく認知させたい、また若い世代にも郷土料理を伝承したいと考えている。しかし、現状・課題として、登録メンバーは22名だが、実質活動しているのは5、6名にとどまり、活動継続が困難になることが懸念されている。さらに、少子化や習い事の多様化に伴って、彼女たちの主たる活動である森林教室に参加する児童数も伸び悩んでいる。

B. 加子母図書室ボランティア「ひなたぼっこ」 今後、女性たちが持っている能力やスキルを發揮しながら、地域住民が愛着を持てる居場所（サードプレイス）を作りたいとしている。また、同団体主催のイベントをさらに広く周知していきたいとしており、後述する《情報発信》団体Gの協力を得ることも解決策の一つとして考えられる。課題点として、男性たちや高齢者の図書室利用率が低いこと、《教育》団体Aと同様に、マンパワー不足を挙げている。

C. 見守り隊 後継者不足のため、当団体と《教育》団体Aの代表はU氏が兼任しているが、活動の継承について、義務感による継続は望んでいない。

3.3 《子育て》

D. はっぴーたーん 二人の未就園児を抱える代表のK氏は、同じく未就園児を持つ母親の居場所を作るため、「女性分科会」会長F氏の協力を得て、2018年に立ち上げた。子どもの体調不良などによって、活動回数やメンバーの参加率は不規則な現状にあるが、今後も活動を継続したいと考えている。

E. 加子母子育てクラブ「くるりんぱ」 《子育て》団体Dに対して、当団体は未就園児の居場所づくりを目的としている。設立当時、公園に遊具は無く、雨でも過ごせる場所が無かったため、発足に至った。課題点として、参加者がいない日もあること、スタッフの確保が難しいことが挙げられた。しかし、制度¹の都合上、活動日数は減らせないとしている。

表2 女性活動団体の活動の目的

《カテゴリー》	《教育》			《子育て》		《高齢者ケア》	《情報発信》	《防災》	《文化伝承》(郷土料理)
記号	A	B	C	D	E	F	G	H	I
a. 団体名	恵那こぶしの会	ひなたぼっこ	見守り隊	はっぴーたーん	くるりんぱ	うさぎ会	かしも通信	日赤女性奉仕団	わらびの会
b. 活動の目的	山の恵みを体感 豊かな山を次世代へ繋げる	誰もが利用しやすい図書室を目指す	お世話になった小学校に恩返しをしたい	未就園児を持つ母親たちの居場所をつくる	未就園児たちの居場所をつくる	「中間世代」の人たちの居場所をつくる	加子母に特化した情報誌を作る	元々デイサービスのボランティア活動	料理を通して色々な人と知り合う

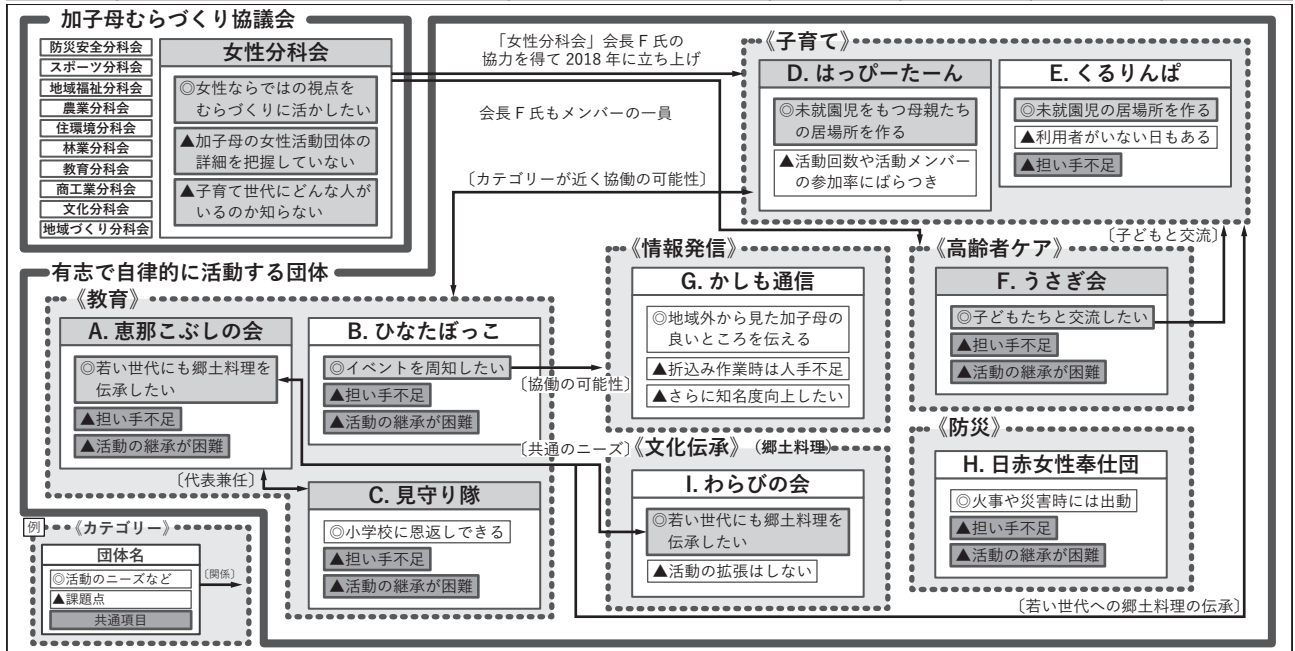


図1 加子母地区における女性活動団体の詳細関係図

3.4 《高齢者ケア》

F. 高齢者サロン「うさぎ会」 この団体の立ち上げには「女性分科会」会長F氏も関わっており、活動メンバーにも含まれている。今後のニーズとして、子どもとの交流を挙げており、《子育て》団体D・Eとの協働も効果的であると考えられる。課題点は《教育》団体A・Cと同様で、活動の継続は困難だが、義務による継承は望んでいない。

3.5 《情報発信》

G. かしも通信 他の団体とは異なり、活動メンバーのほとんどは加子母地区へのIターン者・Uターン者で、地域の外から見た加子母の良いところを伝えることに重点を置いている。課題点として、知名度向上と折り込み作業の人手不足を挙げている。

3.6 《防災》

H. 日赤女性奉仕団 活動メンバーは、加子母の全10区から一人ずつ選出された任期2年の役員10名と有志で構成されている。また、活動内容の一つに、火事や災害時に行政から要請があれば出動が義務付けられているなど、活動は一部制限されている。

3.7 《文化伝承(郷土料理)》

I. わらびの会 構成員は60代後半7名の同世代で、将来的に、これ以上メンバーを増やすことはないとしており、理由として、人数の増加によって活動日の決定が困難になることを挙げている。しかし、活動の拡張はしないとしながらも、《教育》団体Aと同様に伝統料理を若い世代へ伝えたいとしている。当団体と《教育》団体A、《子育て》団体D・Eで、郷土料理の伝承について協働の可能性が見える。

3.8 小結

調査から、各団体の共通点が確認できた。まず、今後の活動方針として、「今まで通り団体内の雰囲気維持しつつ、負担無く続けていきたい」と考えていること、課題点として「担い手不足」や「活動の後継者不足」などが挙げられた。

今後の展望として、女性活動団体それぞれの立ち位置を明確化し、カテゴリー分けをすることで、各団体が掲げる目的や共通の課題点に対して、お互いに補完的な関係を築いて活動できる可能性がある。

4. 多世代ワークショップの企画

4.1 ワークショップのテーマ 聞き取り調査から、比較的コミュニティ規模が小さく、各団体の構成員が少ない加子母地区内でも団体同士の活動を知らず、つながりも希薄であることが再確認できた。それを踏まえ、以下のテーマを掲げた多世代WSを計画し、「女性分科会」会長F氏に提案し、賛同を得た：①「それぞれの団体が他団体の活動を知る」、②「今後、自分たちが地域でできることを考える。」

4.2 ワークショップの企画 「女性分科会」の後援を受け、多世代WSを「第4回女性分科会」と位置づけた。ワークショップの開催日時や場所の選定、参加者の募集方法、タイムスケジュールや内容を、複数回の協議を重ねて決定した。ワークショップの概要を表3に示す。

4.3 団体紹介冊子の作成 多世代WSのテーマ①である「それぞれの団体が他団体の活動を知る」を効果的にするため、聞き取り調査を実施した9つの女性活動団体をまとめた『団体紹介冊子』の作成・配布を提案した。「活動メンバー」「活動のきっかけ」

表3 多世代ワークショップ・概要

日付	2019年10月30日(水)
時間	19時30分~21時00分 (受付開始:19時/全行程1時間30分)
場所	加子母研修交流施設「ふれあいのやかた」2階
参加者	子育て世代の方から高齢の方まで 女性分科会に所属する方、下記団体に所属する方 うさぎ会/ひなたぼっこ/はっぴーたん/わらびの会/かしも通信 恵那こぶしの会/くるりんぱ/見守り隊/日赤女性奉仕団
内容	・加子母の地域資源を発見、共有する ・立場や役職の垣根を超えて、気軽におしゃべりしながら「これから、わたしたちができること」を一緒に考える
主催	名古屋工業大学大学院 藤岡研究室
後援	加子母むらづくり協議会 女性分科会



図2 作成した冊子

「活動内容」「活動日時・場所」「対象者・利用者」「やりたいこと・お困りごと」「活動写真」「団体代表連絡先」を記載したA5、20ページの冊子を多世代WSの資料として事前に作成し、各女性活動団体の代表者に内容の確認を済ませた上で、ワークショップ当日に参加者へ配布した。(図2)

5. 多世代ワークショップの実施

5.1 グループワーク グループから出た主な意見を表4に示す。チーム「人魚姫」では、「住みよい加子母にしよまいかい」というテーマを掲げ、団体の交流や協働を通して、昔からある加子母の伝統料理を若い人たちへ伝えるきっかけを与える案が出た。ワークショップの会場の様子を図3、グループワークで作成されたシートの一部を図4に示す。

5.2 総括 多世代WSの総括として、「女性分科会」会長F氏は、普段関わりを持たない属性の人々が集まることで、予期せぬ相乗効果が生じることの重要性について言及し、「女性分科会」に関わる人や団体の多様性が重要である認識を改めて明示した。

6. アンケート調査

6.1 調査概要 参加者の多世代交流に対するニーズを把握し、団体同士の協働の可能性を探るためにアンケート調査を実施した。調査の概要を表5に示す。

表5 アンケート調査・調査項目

配布方法	ワークショップの最後に参加者全員にアンケートを記述してもらい、その場で回収した
調査対象	参加者21名(回収率100%)
調査項目	基本情報【選択形式】 (1)年齢 (2)職業
	多世代ワークショップについて【選択・自由記述】 (1)今回参加した理由 (2)参加して感じたこと、気づいたこと (3)次回も参加したいか (4)(3)についてなぜそう思うのか

表4 多世代ワークショップ・グループワーク

白雪姫：「つながる」
・子どもやお年寄りの情報を知らない ・それぞれの団体やグループが手足を伸ばしていくと、いろんなところでつながって、いろんな活動ができる(一緒に何かをするコラボ活動)
シンデレラ：「楽しく続ける」
・一度始めた活動を楽しそうに続けたい! ・チラシで告知することも大事だけど、直接顔を合わせて「一緒にやらない?」と声をかけることで、グループ同士のつながりを地域で広げていけるといいな
眠り姫：「加子母がもっと楽しくなる」
・子ども連れでも、わかりやすい内容で行きやすい場や、ちょっとしたことをならえる場が欲しい ・団体がどこかと一緒になって「生き方が楽しくなる」ことにつながるといういいな
人魚姫：「住みよい加子母にしよまいかい」
・昔からある料理を若い人たちに伝えていくために、行事に関連する料理を作ってみよまいかい ・お年寄りと交流しながら作ることで、より良い住みよい加子母になるのでは?
髪長姫：「思っていること感じていること」
・こういう集まりに出る人が、同じ顔ばかりになっている ・役が多すぎて忙しい(掛け持ちしている) ・もう少し役が分担されて、幅広い世代で集まれるといいな

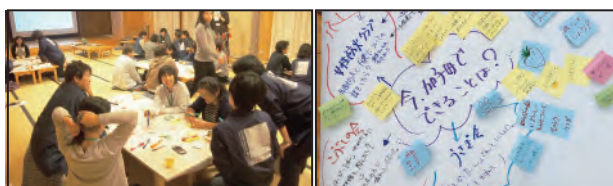


図3 会場の様子

図4 グループワーク・シート

6.2 調査結果・基本情報

①年齢 20代と80代の回答は無く、参加者21名中71.4%に当たる15名が50-60代で、本ワークショップの参加年齢層は比較的高かった。(図5)

②職業 専業主婦の割合が一番高いが61.9%にとどまり、約4割の女性たちは働きながらも地域活動に携わろうとしていることが確認できた。(図6)

6.3 調査結果・多世代ワークショップについて

①参加理由 ワorkshopの参加理由について、「その他」の回答率が37.5%と一番高く、明記したものの中には「責任」や「通知や案内が来たから」という回答もあり、一部の参加者は義務感によって参加していた。(図7)

②参加して感じたこと、気づいたこと 18件の回答を趣旨ごとに区切り、30センテンスに細分した。さらに、〔発見〕〔疑問〕〔提案〕〔願望〕〔感想〕の5つのカテゴリーに分類した。内容を表6に示す。30文中14文の46.7%が〔発見〕にあたり、約半数の参加者が他団体の活動内容に興味関心を示した。〔疑問〕では、団体の参加資格の有無を確認するものや、「少子化社会の中で、子育て世代を対象とした団体が2つも必要なのか」と指摘する意見もあり、各団体の運営方針や体制を見直す必要があると考えられる。〔提案〕と〔願望〕では、団体の広報について、冊子の配布や各団体の名刺の作成・配布が有効ではないかと提案する声もあり、冊子の有用性が確認でき、発展の余地が見出された。

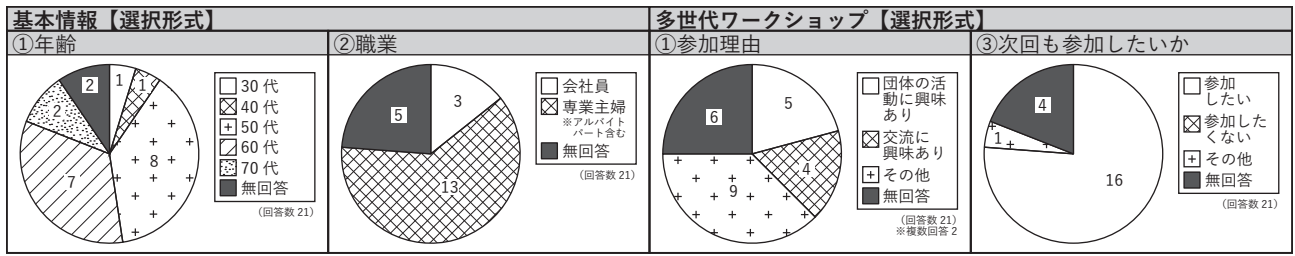


図5 年齢

表6 参加して感じたこと、気づいたこと

図6 職業

図7 参加理由

図8 次回の参加希望

多世代ワークショップ【自由記述形式】		多世代ワークショップ【自由記述形式】	
②参加して感じたこと、気づいたこと (回答数21)		④次回も参加を希望する理由 (回答数21)	
分類項目	自由記述	分類項目	自由記述
発見 (回答数14)	<ul style="list-style-type: none"> ・加子母の中にたくさんの活動と、それを生き生きと行っている人たちがたくさんみえることがよくわかりました。 ・加子母にこんなグループがあって、こんな内容のことをしていることが、新しい発見でした。 ・若い人の考えやいろんな活動内容がわかって良かった。 ・加子母で名前を聞く会ではあったけど、今回冊子を見て内容等、初めて知ることばかりで良かったと思います。 	楽しい (回答数3)	<ul style="list-style-type: none"> ・思った以上に楽しかった。 ・色々な話が聞けて、おしゃべりできて楽しいです。
疑問 (回答数3)	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体で、資格は必要なのか。 ・保険など、どうしているのか。 ・「くるりんぱ」と「はっぴーたん」と子育て中利用で、2つ必要なのではないでしょうか。(子どもが少ない中) 	推奨 (回答数1)	<ul style="list-style-type: none"> ・特に子どもが学校を卒業すると交流の場がぐっと減るので、こういう場があると色々な人と会話する機会が増えるのいいと思います。
提案 (回答数3)	<ul style="list-style-type: none"> ・私は2つの団体に入っていますが、他の団体の人と一緒に活動することがもっとできるのではまいかと思いました。 ・あと、ささゆりボランティア(社協の配色サービス)という団体もありますよ。 ・各団体で名刺を作って配って活動を知ってもらおうとつながりが広がるかも? 	提案 (回答数2)	<ul style="list-style-type: none"> ・タダ、座っているのが辛かったです。イスの方がいいです。 ・今回は初めてだったので、始動に時間がかかりましたが、次回は早いかな?(どういものかわからなかったで…)
願望 (回答数5)	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体がコラボするといいネ ・もっといろんな人にも知ってもらえるといいなと思いました。 ・今日のこの会のまとめみたいなのを作られたら欲しい!!です。 ・知らない人も多いと思うので発表でも出しましたが、色々な人に冊子が配られるといいと思います。 	願望 (回答数5)	<ul style="list-style-type: none"> ・これからは「つながり」を大事にしていきたいと思います。 ・もっと色々なことを知りたいです。 ・加子母の人たちの考えを聞きたい。 ・予定が合えば、参加したい。
感想 (回答数5)	<ul style="list-style-type: none"> ・広がっていく何かのきっかけになると思います。 ・団体の活動内容を知らなくて、恥ずかしい… ・初めての参加でしたが、みなさん活発に活動しておられ喜ばしい。 ・地域を良くしたいという同じ想いで活動しているんだということを感じました。 	発見 (回答数5)	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な会の活動内容(情報)がわかり、頭が少しやわらかくなったように思います。 ・自分たちの団体だけの活動にとどまらない事が地域のために生かされていくと思います。 ・普段は家事と仕事で地域のことを知っているようで知らないことが多いです。 ・知らない人と会えるから。
		感謝 (回答数4)	<ul style="list-style-type: none"> ・学生さんたちも親切で嬉しかったです。 ・ありがとうございました。

③次回の参加希望 ①参加理由では、責任や義務感による回答もあったが、参加後は肯定的な展開がみられ、「次回も参加したい」と回答したのは16件の76.2%で、「参加したくない」とする回答は皆無であった。「その他」は1件で、時間があれば参加したいとし、前向きな姿勢が確認できた。(図8)

④次回も参加を希望する理由 ②と同様に、要旨ごとに回答14件を20センテンスに細分し、[楽しい][推奨][提案][願望][発見][感謝]の6カテゴリーに分けた。詳細を表7に示す。[楽しい]では交流を楽しむ声や、[推奨]・[発見]から子どもの学校卒業や仕事と家事に追われて、地域活動に関する情報に触れる機会が減少する傾向にあることがわかった。[願望]ワークショップの参加者だけでなく、地域活動に参加しない女性たちや男性からも意見を聞きたいというコメントもあり、多世代WSを多様な地域住民に広める必要があるとわかった。

7. 地域全体へのフィードバック 「むら協」の依頼により、同団体が発行する『かしもむら協ニュース』において、多世代WSの内容と参加者の感想や意見をまとめた『名工大特別号!』(A3、両面)を作成し、「むら協」が加子母地区全戸に配布した。

8. まとめ 聞き取り調査から、各団体の共通課題・意識が4点確認できた：①「各団体で実質活動するメンバーはごく少数」、②「人手不足」、③「活動の継承が困難」、④「義務感による継続は望まない。」

さらに、多世代WSを通じて、参加者たちは自身が所属する団体以外に、個々で主体的に活動する団体について詳しく知ることができた。彼女たちは、それぞれが「地域を良くしたい」という共通の目的意識を持って活動していることを理解し、団体同士で協力関係を築き得るという展望を持った。

今後、加子母地区で活動する女性たちが、互いに自団体の情報を地域全体で把握・共有するために多世代WSを継続して開催する、各団体の情報をまとめた団体紹介冊子を配布するなどして、所属団体の活動だけでなく、他団体の動向にも意識を向けることが不可欠である。さらに、各女性活動団体に共通する課題点やニーズに対して、団体同士で協働して、お互いに補い合う関係性を築くことで、活動の幅が今まで以上に広がるだけでなく、より実効性の高い地域活動へつながるとい展望が得られた。

【謝辞】本研究・調査にあたって、ご協力いただきました、加子母むらづくり協議会女性分科会・女性活動団体・地域住民・加子母総合事務所の皆様に感謝の意を表します。
【註釈】1.「ファミリーサポート制度」